

# テンプスタッフ

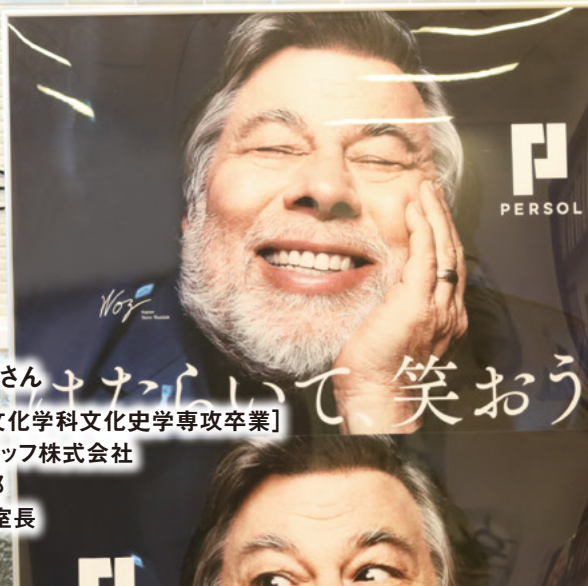
# My My

## 私と 「仕事」

第75回



Benesse



み たに ゆう こ  
**三谷 祐子**さん

[2003年 文学部文化学科文化史学専攻卒業]

パーソルテンプスタッフ株式会社

研究開発事業本部

大学営業推進室 室長

## 一人ひとりの仕事への思いに深く寄り添い 能力を発揮し成長できる機会をご提案したい

### One day on the job



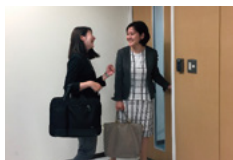
09:30

フレックスを使用し  
時間差出勤。  
メールをチェックして  
進めているPJTの進捗や  
同行依頼を確認。  
在宅勤務を行う日も。



10:30

企画中の学会参加の案を  
上司と打合せ。  
「理系学生にとって就職を  
イメージできるものを」と  
先生からご相談を受け、  
企画中。



13:30

大阪から神戸へ移動し、  
大学へ同行。  
様々なニーズがあり、  
研究職派遣の他に  
人材紹介や求人広告、  
業務委託の提案も。



15:30

この日は神戸オフィスの  
メンバーと今後の  
新規訪問の  
同行予定の調整や  
提案内容を打合せ。



18:00

神戸から自宅に  
車を取りに戻り、  
すぐに保育園へお迎え。  
ご機嫌な娘と  
話をしているうちに  
自然と家庭モードへ。

個々の実力でキャリアアップが図れる業界で思う存分仕事に挑みたい。これが就職に向けて私が望んだ選択のポイントでした。この視点で絞り込んだ時、合致したのが、数多くの女性が第一線で活躍している人材ビジネスの分野です。人材派遣・紹介事業を行っているテンプスタッフ(現・パーソルテンプスタッフ)に入社が決まり、希望がかないませんでした。当初配属されたのは事務派遣部門です。営業担当でしたが、就業されている方々をフォローする業務も同時に担うことになり、戸惑いの連続でした。就業経験のない新卒社員が実績のある年上の皆様に仕事の状況や悩みなどをお聞きし、サポートするのですから、先輩の助言が頼りであり、20代前半は「早く一人前になりたい!」と思い続けていました。このような経験を経て、27歳の時にマネージャーに登用されました。まだ年齢も若く、初めての管理職なので、肩にすぐく力が入っており、脇目も振らず目標達成に邁進しました。際立つ成果を上げて、認めてもらいたかったのです。

「人の価値は仕事の成果で決まる」と考えていた私に、大きな変化をもたらしてくれたのは、30代になって授かつ

た娘でした。「赤ちゃんは自身では何もできないけれど、周りの人々に喜びや癒しを与えている」ということに気づき、結果だけが全てではなく、誰にでもかけがえのない価値があることを実感したのです。これを機に、仕事にもゆとりが生まれ、誰もが最大限に能力を発揮するためには、どうすれば良いのかといったことにも思いを馳せるようになりました。現在は大学や研究所を対象に、理系専門職の人材派遣・受託の事業認知を推進する業務を担当しています。例えば、研究開発が活発で人手不足の再生医療の分野へ弊社の理系専門職の社員を派遣する事業も行っています。事務職から細胞培養技術者へ転身し、iPS細胞の研究を支えている主婦もいます。パーソルグループでは「人と組織の成長創造インフラへ」というグループビジョンを掲げ、働く人々に様々な成長の機会をご提供し、組織の伸展に貢献したいと考えています。私たちはグループ全体で成長と安定につながる多様な働き方のご提案ができます。これによって「一人ひとりの仕事への思いに深く寄り添い、ともに歩むことができれば」と願っています。